

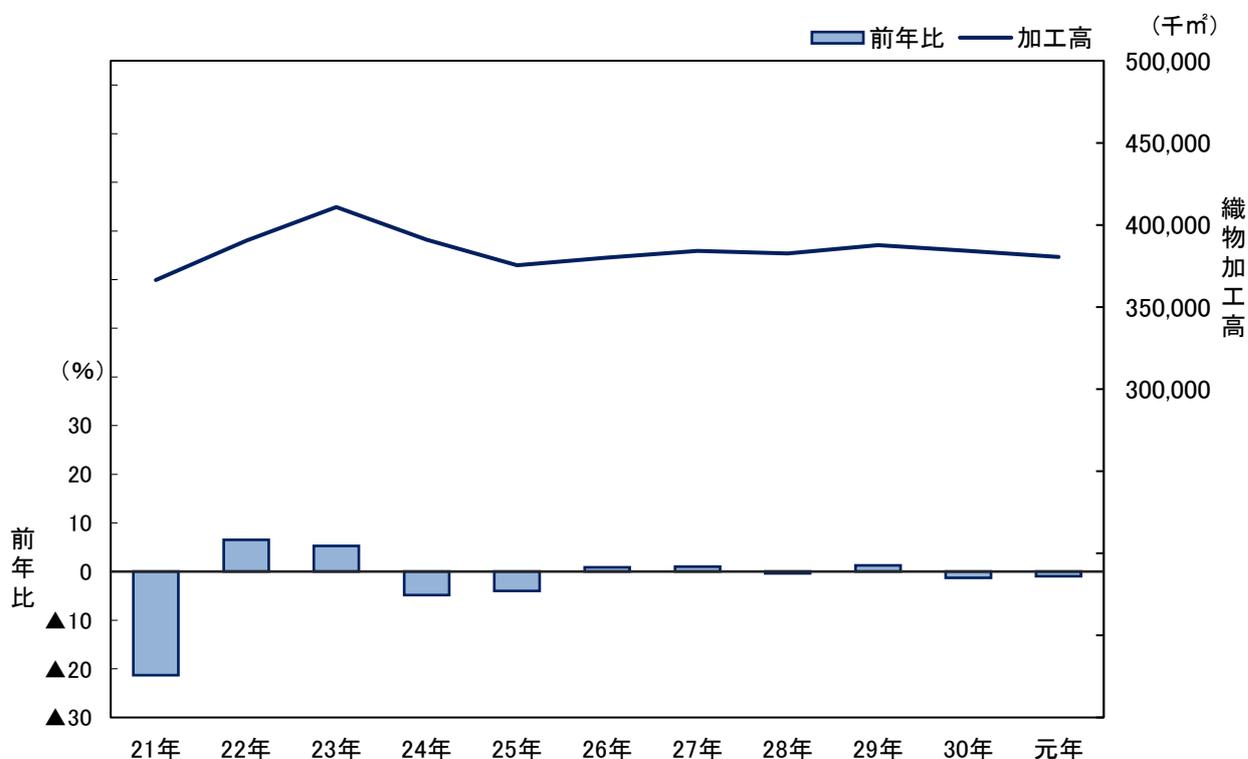
# 染色整理

## 1 織物の染色整理加工高についての概況

令和元年の織物の染色整理加工高は、380,482 千㎡で前年比 1.0%の低下となった。

加工別にみると、浸染品の国内用加工高が 201,704 千㎡で最も多く、次いで浸染品の輸出用（84,055 千㎡）、精練および漂白品の国内用（72,163 千㎡）となっている。

図3 織物染色整理加工高の推移と前年比



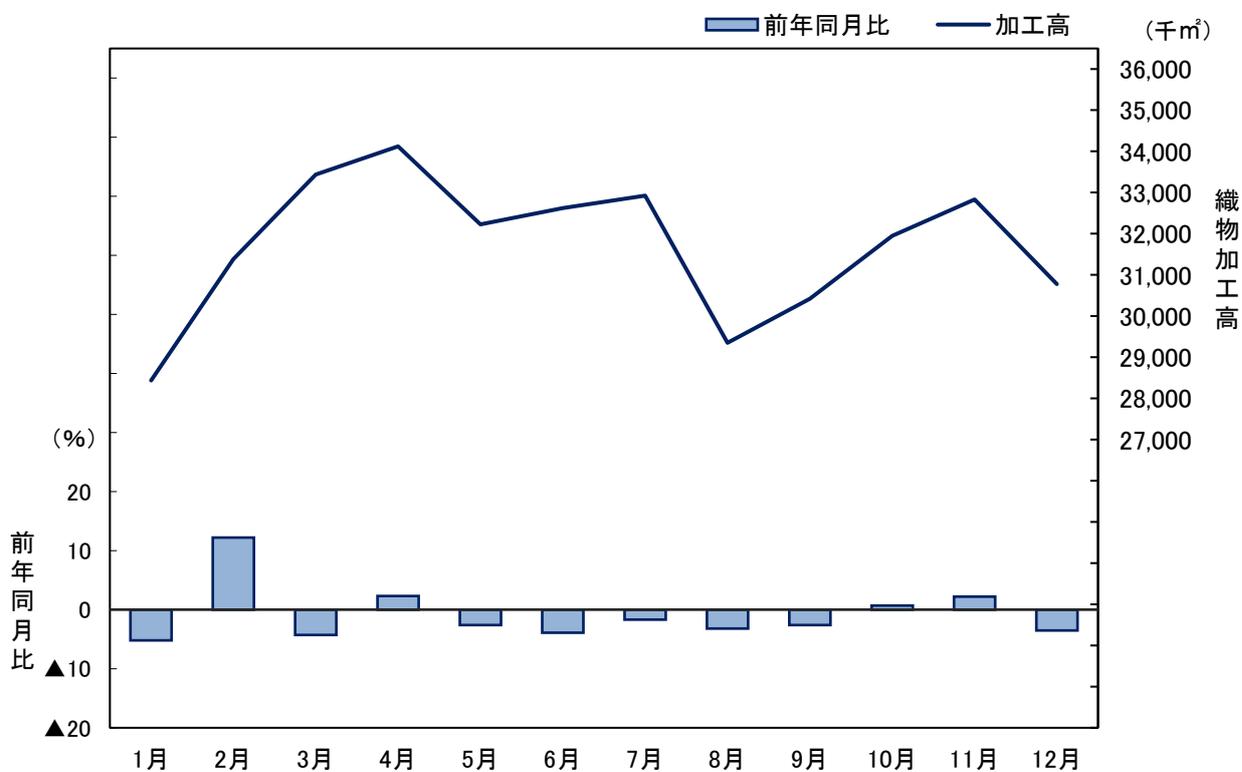
	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年
加工高	366,440	390,393	410,873	390,957	375,485	380,175	384,111	382,720	387,678	384,158	380,482
前年比	▲ 21.3	6.5	5.3	▲ 4.8	▲ 4.0	0.8	1.0	▲ 0.4	1.3	▲ 1.3	▲ 1.0

※対象事業所の見直しにより、平成 26 年および平成 30 年の前年比は、前年の数値に接続係数を乗じた数値をもとに計算している。

令和元年の織物の染色整理加工高を月別にみると、4月の34,122千㎡が最も多く、1月の28,436千㎡が最も少なくなっている。

前年同月比をみると、2月の12.2%が最も高く、1月の▲5.2%が最も低くなっている。

図4 令和元年織物染色整理加工高の推移と前年同月比



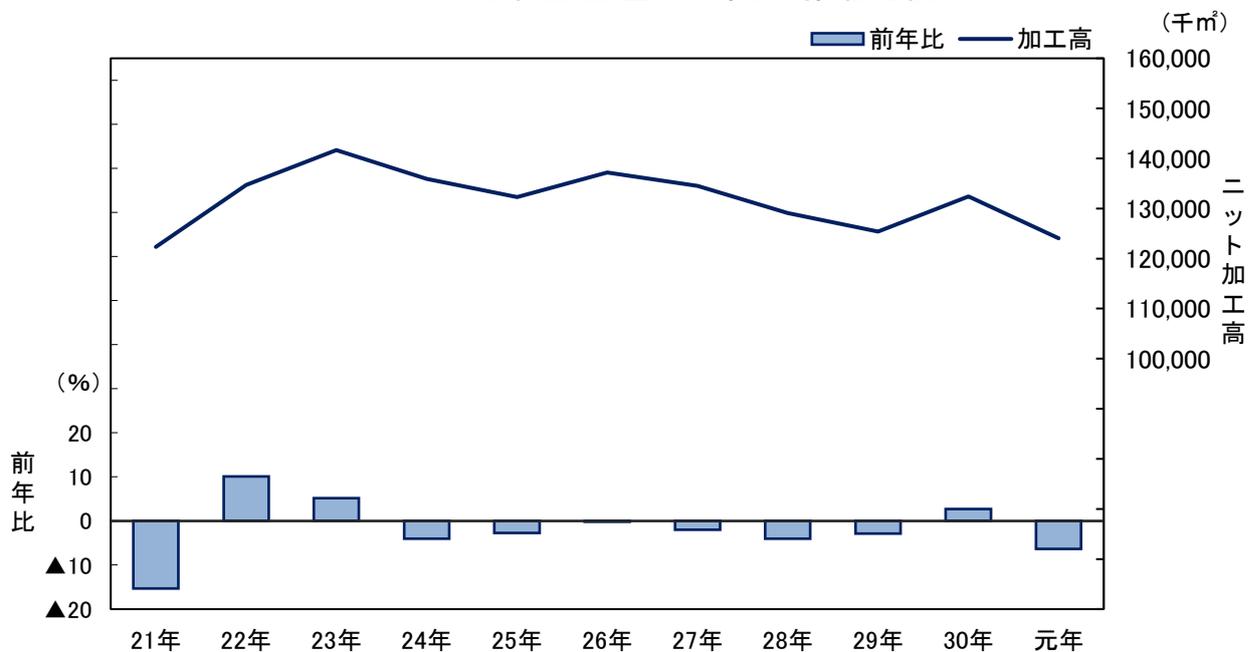
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
加工高	28,436	31,385	33,436	34,122	32,225	32,626	32,924	29,350	30,420	31,949	32,835	30,774
前年同月比	▲5.2	12.2	▲4.3	2.3	▲2.6	▲3.9	▲1.7	▲3.2	▲2.6	0.7	2.2	▲3.5

## 2 ニット生地の染色整理加工高についての概況

令和元年のニット生地の染色整理加工高は、124,061 千㎡で前年比 6.3%の低下となった。

加工別にみると、浸染品の国内用加工高が 108,262 千㎡で最も多く、次いで精練および漂白品の国内用（5,667 千㎡）、浸染品の輸出用（5,205 千㎡）となっている。

図5 ニット生地染色整理加工高の推移と前年比



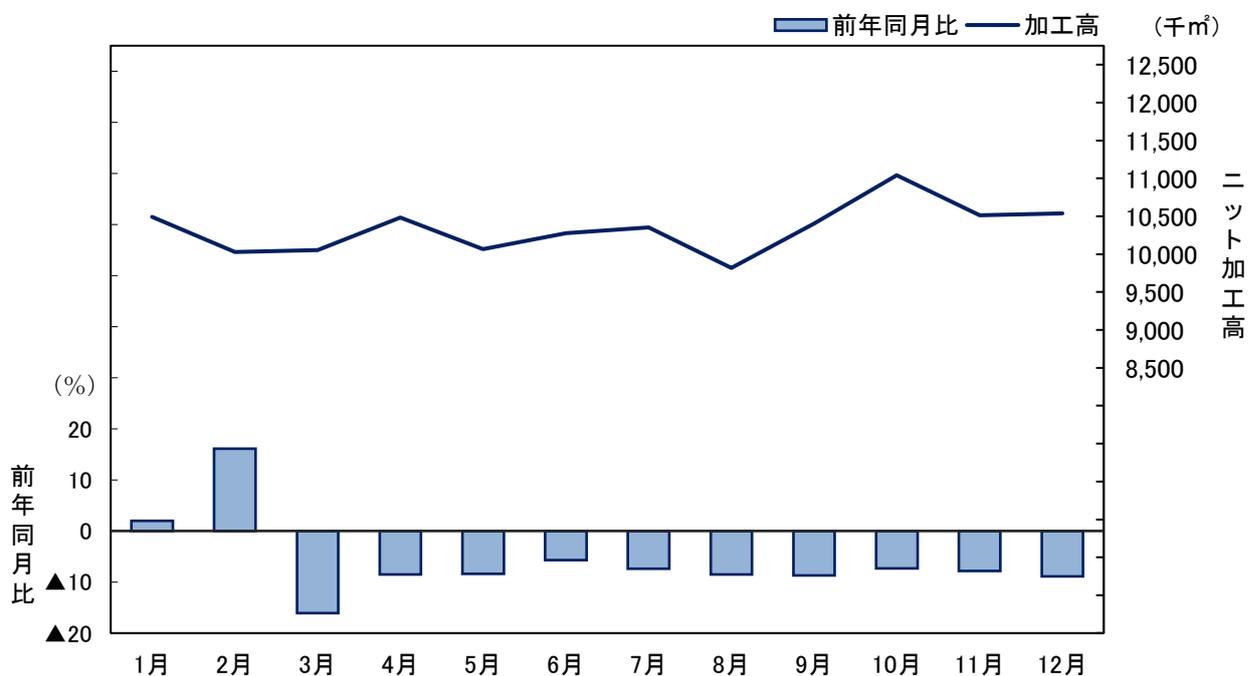
	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年
加工高	122,335	134,727	141,670	135,928	132,270	137,223	134,518	129,085	125,378	132,429	124,061
前年比	▲15.3	10.1	5.2	▲4.1	▲2.7	▲0.1	▲2.0	▲4.0	▲2.9	2.7	▲6.3

※対象事業所の見直しにより、平成 26 年および平成 30 年の前年比は、前年の数値に接続係数を乗じた数値をもとに計算している。

令和元年のニット生地の染色整理加工高を月別にみると、10月の11,041千㎡が最も多く、8月の9,818千㎡が最も少なくなっている。

前年同月比をみると、2月の16.1%が最も高く、3月の▲16.1%が最も低くなっている。

図6 令和元年ニット生地染色整理加工高の推移と前年同月比



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
加工高	10,491	10,029	10,052	10,482	10,067	10,277	10,351	9,818	10,404	11,041	10,511	10,538
前年同月比	2.0	16.1	▲16.1	▲8.5	▲8.4	▲5.7	▲7.4	▲8.5	▲8.7	▲7.3	▲7.8	▲8.9